

## ◇◇◇ 創立150周年に向けて ~その1~ ◇◇◇

栗真小学校は、今年の5月に創立150周年を迎えます。その記念すべき日を迎える前に、栗真の歴史や栗真小学校の歴史を簡単に振り返っていきます。

栗真小学校区は、北から小川地区、中山地区、町屋地区の3つの地区によって成り立っています。この3つの地区は、一身田地区のように、お寺を中心に発展した地域ではなく、伊勢街道に沿って発展した地域です。この伊勢街道は、四日市市日永の追分で東海道から分かれ、伊勢へと通じるルートです。近世にはほぼ固定され、江戸幕府によって街道へと整備されていきました。平安時代以前は、一般の人は参拝できなかった伊勢神宮でしたが、江戸時代になると、一般の人たちも伊勢神宮を参拝するようになりました。伊勢を目指し、この伊勢街道を通った全国の多くの人たちによって、この3つの地域も賑わい、発展してきたのです。しかし、この時代には、栗真という地名は、まだありませんでした。

現在の津市の多くは、江戸時代には、伊勢の国の津藩の領地でしたが、紀伊の国の和歌山藩の領地であった地域も多くありました。小川村もその一つでした。中山村と町屋村は、和歌山藩と津藩との相給地（複数の領主によって支配されていた土地）でした。明治4年になると藩の制度が廃止され、3つの村は安濃津県の管轄となり、明治5年には三重県と名称が改められました。明治12年になると、郡区町村編制法の三重県での施行により、行政区画としての奄芸（あんぎ）郡が発足し、3つの村を含めた多くの村がそこに属することになりました。さらに、明治22年になると、町村制の施行により、小川村、中山村、町屋村の区域を合わせて、栗真村と称することになりました。

栗真村が誕生したのは明治22年でしたが、その5年前の明治17年には、栗真小学校の前身である中山学校の名称が、栗真学校と既に呼ばれるようになっていました。では、この「栗真」という名称は、何を基に名付けられたのか、調べてみたことを掲載してみます。

- 南北朝時代には藤原忠実の荘園である「栗真荘」があった。
- 「栗真荘」は白子から津市河芸地域を経て、現在の三重大学周辺までを領域とする旧奄芸郡のほぼ全域に相当する荘園である。津市には「栗真町屋町」として、白子にも小字栗真としてその名が残っている。
- 車庄または車間庄とも書く。現白子町の近鉄駅付近に栗真の字名があり、同町には式内久留真（くるま）神社もある。

また、「町屋村」についても調べてみると、

- 中世、栗真庄（現鈴鹿市）に属したといわれ、後に栗真村の名を生むことになる。文禄検地帳写によると、町屋・白塚・中山・小川、中瀬・高佐（現安芸郡河芸町）を一括して「安芸郡千王名」と表していることから、荘園制の頃、当地が千王という田堵クラスの農民（日本の平安時代に荘園・国衙領の田地経営をおこなった有力百姓層）の請作地であったと推定される。

どうやら「栗真」という名称は、南北朝時代の荘園の名「栗真荘」が基になったと推測されます。また、栗真町屋町の「千王神社」の名前の由来も見つけることができたようです。

【参考】①栗真小学校創立100周年記念「栗真郷土史妙」

②コトバンク「栗真荘」「町屋村」

③ウィキペディア（Wikipedia）「奄芸郡」「白子」

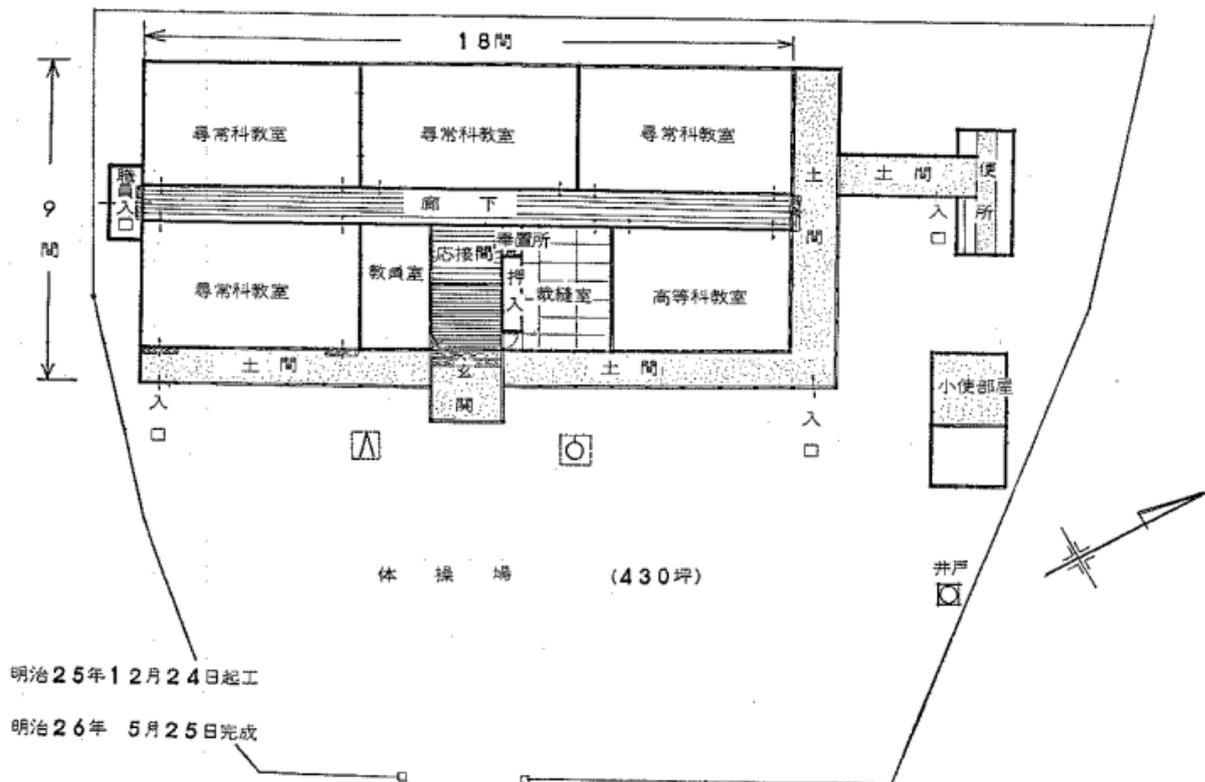
## ◇◇◇ 創立150周年に向けて ~その2~ ◇◇◇

近代化を進める日本は、明治5年に「学制」を公布しました。「学制」とは、我が国初の近代的学校制度を定めた基本法令です。津市においても、養正小学校や修成小学校の前身となる学校が開校されていきます。栗真小学校の前身である中山学校は、明治7年5月25日に開校されました。この年は、「板垣死すとも自由は死せず」の言葉で有名な板垣退助が同志とともに「国会開設」を要求し、自由民権運動が始まったとされる頃です。

明治14年になると、町屋村、中山村、小川村の3つの村は学校組合をつくり、中山学校を本校として、町屋、小川の村へ分教場（今でいう「分校」のこと）を設けます。明治17年には、中山学校を栗真学校と称するようになります。

明治20年4月には、小学校令という制度によって栗真学校は、栗真簡易科授業所に名称が変わり、明治25年3月には、修業年限が4年間の尋常小学校となります。栗真小学校の建物と敷地は設立されてから明治23年までは、借地と借屋、一部は民家を使っていたそうです。しかし、明治20年に学制が改められたことや、栗真の人たちの教育を尊重する気持ちが高まったことなどから、学校へ入学する児童が年々増えてきたため、明治25年に校舎を新築することになりました。この当時は、今のように義務教育ではなかったため、みんなが学校に行けるわけではない時代でした。そして、新校舎が完成したのは、明治26年5月25日でした。この新校舎新築のために購入した土地と建築費用を合わせると、2530円だったそうです。その当時としては、多額の費用であったため、「けしからん」という声もあったそうです。

### 学校組合立 栗真尋常小学校平面図



【参考】栗真小学校創立100周年記念「栗真郷土史妙」

## ◇◇◇ 創立150周年に向けて ~その3~ ◇◇◇

明治39年4月になると、修業年限2年間の高等科ができて栗真尋常高等小学校と変わりましたが、明治41年の学校制度変更のために再び栗真尋常小学校に名称が変わりました。年月とともに児童数が増えてくると、校舎の狭さを訴える声が多くなり、校舎を増築することになりました。明治44年1月に着工し、大正元年9月1日に北校舎が完成しました。土地の購入代金を含めた増築費用は4723円だったそうです。



【明治39年 栗真尋常高等小学校】



【明治42年 栗真尋常小学校】

大正7年4月になると、再び2年間の高等科を合わせ設け、栗真尋常高等小学校に変わります。そして、昭和4年12月には、南校舎1棟が増築されます。この時の校舎建築費用は、8841円だったそうです。

昭和9年4月になると、高等公民学校がつけられたため、高等科の募集が取りやめられ、高等科がなくなります。そして、昭和9年9月には、北校舎西側へ2教室が増築されます。2教室の増築でしたが、費用はおよそ4000円かかったそうです。



【昭和4年 南校舎の増築】



【昭和6年 集会の様子】

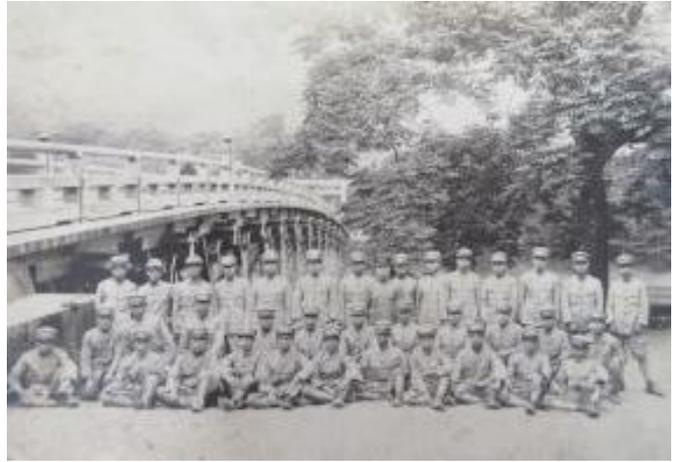
【参考】栗真小学校創立100周年記念「栗真郷土史妙」

## ◇◇◇ 創立150周年に向けて ~その4~ ◇◇◇

昭和16年4月になると、国民学校令という制度により、河芸郡栗真村国民学校と改称されます。そして、昭和17年4月に再び高等科ができますが、終戦後の昭和22年4月には、新学校制度によって河芸郡栗真村立栗真小学校と改称され、高等科は新制中学校へ編入されることとなります。



【昭和16年 栗真村国民学校】



【戦時中の修学旅行】

### 【参考】

- 明治22年4月の町村制の施行により、奄芸郡内の小川村・中山村・町屋村の区域をもって栗真村が発足される。
- 明治29年4月には、栗真村の所属郡が河芸郡に変更され、奄芸郡が廃止される。
- 昭和16年4月の国民学校令とは、当時の日本が、国家主義的な国民教育を目指すために制定された法律である。この年の12月に真珠湾攻撃があり、アメリカとの太平洋戦争が開戦される。
- 昭和20年8月6日に広島へ、9日に長崎へ原子爆弾が投下される。
- 昭和20年8月15日に日本は終戦を迎える。
- 昭和22年3月に教育基本法が制定され、5月3日に日本国憲法が施行される。

昭和29年8月1日に栗真村は、津市に編入し、栗真村が廃止されると同時に、学校名が現在の津市立栗真小学校と改称されることとなります。そして、昭和39年11月には、南北教室と管理棟などの校舎が増新築されました。



【新校舎落成前の航空写真】

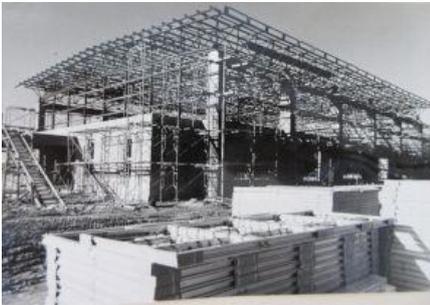


【昭和39年 新校舎竣工式当日の玄関前】

- 【参考】①創立100周年記念「栗真郷土史妙」  
②ウィキペディア「奄芸郡」「栗真村」

## ◇◇◇ 創立150周年に向けて ~その5~ ◇◇◇

昭和47年2月には校歌が制定され、翌年の昭和48年3月には、待望の体育館が完成します。そして、昭和49年5月25日に、創立100周年を迎え、記念祭を実施しました。



【昭和48年 体育館建設】



【体育館完成】



【体育館の落成記念式典】



【昭和49年の子どもたち】



【創立100周年記念式典】



栗真小学校には、昭和45年に造られたビニール製の簡易プールはありましたが、本格的なプールがありませんでした。念願のプールが完成したのは、昭和50年のことでした。このプールが完成する前年の昭和49年の7月には、台風8号の北上により刺激を受けた梅雨前線の影響で、東海地方を中心に各地で集中豪雨が起きました。津市でも、志登茂川が氾濫し、栗真の街も浸水の被害を受けました。



【昭和49年7月の集中豪雨により浸水した運動場や校舎内の玄関】

昭和53年になると、鉄筋コンクリートの新校舎の建築が開始され、昭和54年には第1期工事が、昭和55年には第2期工事が完了し、現在の校舎が完成しました。校舎の基礎が運動場よりもかさ上げされているのは、昭和49年の水害があったからですね。



【参考】栗真小学校創立100周年記念「栗真郷土史妙」

## ◇◇◇ 創立150周年に向けて ~その6~ ◇◇◇

昭和55年に完成した現在の栗真小学校の校舎は鉄筋コンクリートの校舎でしたが、以前の校舎は木造校舎でした。そのことが分かる写真があります。



【昭和51年当時の木造校舎】



【昭和55年に完成した新校舎】

平成6年になると、創立120周年を迎え、5月22日に記念祭を盛大に実施しました。



【創立120周年記念祭】



【創立120周年記念の航空写真】

平成22年になると、校舎の耐震工事が完了し、平成25年には、校舎トイレの洋式化改修工事が完了し、温水洗浄機能付の便座が設置されました。そして、平成26年には、創立140周年を迎え、11月29日に「祝う会」を実施しました。平成30年になると、給食配膳室の改修工事が完了し、給食の共同化が開始され、栗真小学校の給食が白塚小学校から運ばれてくることになりました。令和元年になると、夏の暑さ対策として、児童の教室や特別教室へのエアコンの設置工事が行われ、年中快適に学習できる環境が整えられました。

令和4年になると、学校プールの老朽化により、民間プールを活用した水泳授業が開始されることとなります。そして、令和5年になると、11月には、児童の教室や職員室の蛍光灯をLEDに切り替える工事が行われ、今までとは比較にならないほど、明るい教室で学習ができるようになりました。この令和5年度には、体育館床の改修工事や運動場の土壌整備など、規模の大きい改善に向けた工事の計画が進められることになっています。

そしてついに、今年の5月には、創立150周年を迎えることになり、現在、創立150周年記念の行事が計画されています。

【参考】栗真小学校創立100周年記念「栗真郷土史妙」



【創立150周年記念のための航空写真～撮影は令和5年度～】

【参考】 本校の児童数の推移 ～昭和55年度からの推移～

- 昭和55年度 児童数337名 学級数12学級  
※昭和の時代は、児童数300名を超えている時期がありましたが、平成の時代になると、少子化の影響もあり、児童数が激減していくことになりました。
- 平成2年度 児童数180名 学級数6学級  
※少子化とともに、指定校変更制度（認可基準に基づき市教委が認めた場合）の余波もあり、平成9年度には153名、平成16年度には132名、平成20年度には119名、平成23年度には89名と減り続け、平成27年度には73名と過去最少を記録することになります。  
※栗真小学校区内に学童保育が誕生するまでは、校区内に在住し本校に入学するはずの児童が毎年10名以上近隣の小学校へと学区変更していましたが、校区内に学童保育が誕生してからは、入学時に学区変更する児童が少しずつ減ってきたと言われています。
- 令和6年度 児童数97名 学級数8学級（特別支援学級2学級を含む）